

付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ情報

平成28年1月23日～2月3日に陸奥湾3定点で付着生物(ユウレイボヤ等)ラーバ調査を行ったので、その結果をお知らせします。

1 ラーバの出現数

ユウレイボヤラーバの出現数の推移は図1、表1のとおり久栗坂沖で2/3に0.6個/トンで、他の2地点では見られませんでした。

オベリア類(通称クサ)のクラゲの出現数の推移は図2、表1のとおり久栗坂沖で2/3に1.1個/トンで、他の2地点では見られませんでした。

キヌマトイガイラーバの出現数は図3、表1のとおりで、久栗坂沖で2/3に56.7個/トン、川内沖で2/3に896.1個/トンで、蟹田沖では見られませんでした。

ネンエキボヤラーバは見られませんでした。

マボヤラーバは、久栗坂沖で2/3に1.1個/トン見られました(表1)。

表1 ラーバ等の出現状況

単位: 個/トン				
調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	オベリア類	キヌマトイガイ
蟹田沖	H28.1.23	0.0	0.0	0.0
久栗坂沖	H28.2.3	0.6	1.1	56.7
川内沖	H28.2.3	0.0	0.0	896.1

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

2 水温の状況

各ブイの2月8日の平均水温は、表2のとおりです。

表2 各ブイの中層における日平均水温(2/8)

観測地点	水温(℃)	観測地点	水温(℃)
平館ブイ	9.8	東湾ブイ	5.2
奥内ブイ	9.1	浜奥内ブイ	3.4
青森ブイ	8.4		

※奥内、浜奥内は10m層、他は15m層

3 今後の見込み

ユウレイボヤのラーバの秋～冬にかけての出現はほぼ終了に近づいており、出現数は平成25～26年度に比べて西湾では少なめ、東湾では同じくらいでした。

ネンエキボヤは、今後パールネット等に付着したコロニー(群体)が肉眼で見えてくるものと思われ、当所の実験漁場(久栗坂、川内)で随時調査していきます。

オベリア(クサ)のクラゲは、出現数が前回より減少していますが、1/29に当所の久栗坂実験漁場から回収したパールネットに5cm前後のオベリアの成体(ポリプ)の付着が見られています。これらが、春先に被害を及ぼす大型のオベリアに成長していくものと考えられます。

キヌマトイガイ(コメガキ)のラーバ(300ミクロン以上)の出現数は、今のところ昨年同時期と同じくらいですが、付着直前のラーバ(500～600ミクロン)が見られており、間もなく付着が始まるものと思われます。

今後のラーバ等の出現動向については、次回(2月下旬発行予定)の情報を参考にしてください。

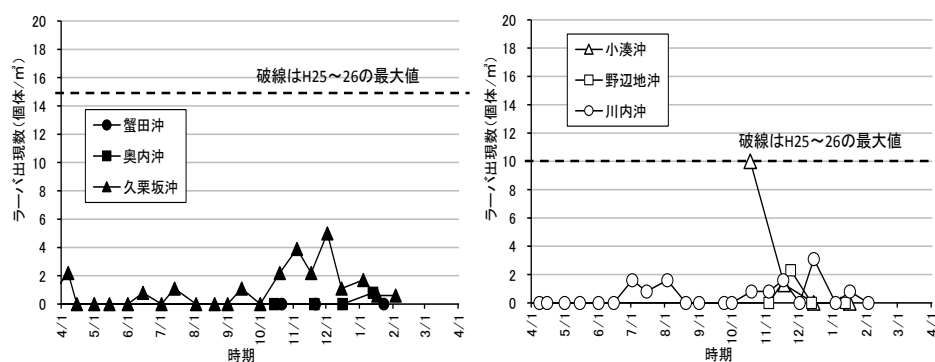


図1 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

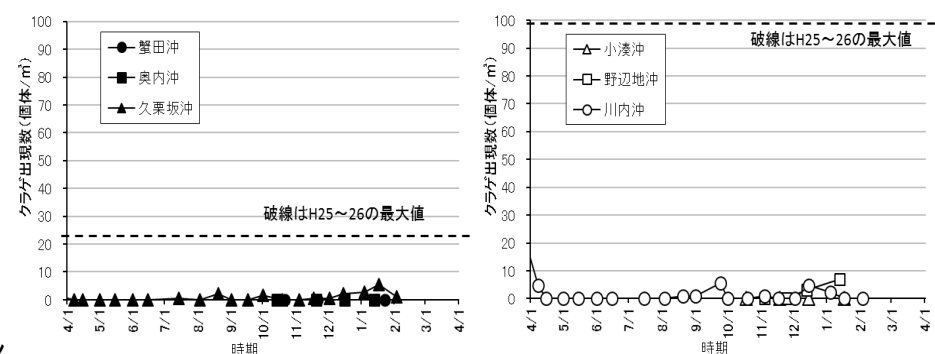


図2 オベリア類のクラゲ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

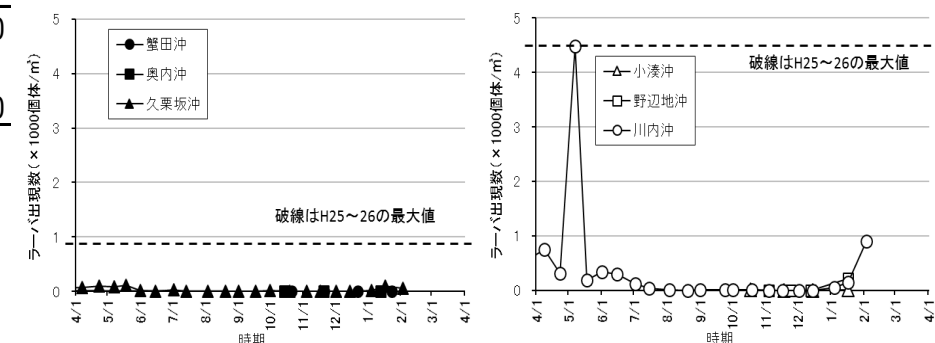


図3 キヌマトイガイのラーバ出現数の推移(4～9月は久栗坂・川内のみ)

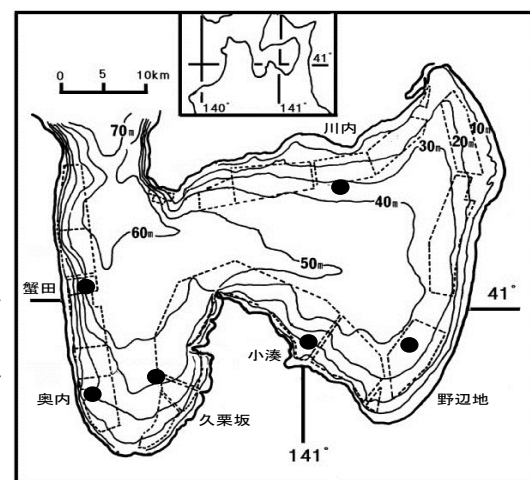


図4 ラーバ調査地点

